対象を

会報誌

く 発 行 > 千葉県立関宿城博物館 友の会・広報部

2020年12月31日

「友の会 勉強会」が開催されます!

令和2年度 第二回(通算第10回)

全世界で「新型コロナウイルス感染症(covid19)」が猛威を振るう現在、日本では既に感染者数190,979人、死者数2,792人(12月17日現在)と多くの方々が脅威にさらされ命を落とされています。

まさに人類は新型コロナウイルス感染症の危機に直面していると言えます。我々は生きていくために、 また社会を維持するためにどのような知恵が出せるでしょうか。ウィルスや感染症についてこれまで以上 に考えなければなりませんね。

このような趣旨から、今回は日本における疫病感染症の歴史について学びましょう。

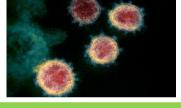
開催期日 : 令和3年2月20日(土) 13時15分~15時30分
 講 師 : 友の会 会長 中村正己氏(関宿城博物館 調査協力員)

3. テーマ : 「日本疫病感染症の歴史」

4. 参加費 : 無料

5. 会 場 : 関宿城博物館 集会室

参加申し込みは別紙おしらせをごらんください。



地域活性化の起爆剤?「御城印」」 友の会企画は「登城記念・関宿城」

「御朱印」どころか最近は登城記念にと「御城印」がブームとなっています。なんでも1980年代に発行の長野「松本城」が初代とか。

11月2日付けの東京新聞・千葉版によりますと、9月末で県内では25種類の御城印が発行されており、 友の会が6月に博物館休憩所内売店で販売を開始した御城印「登場記念・関宿城」もその内の一つです。ま た、12月18日号のちいき新聞によりますと、東葛地区では先行の「関宿城」に続き、10月に流山「花 輪城・前ケ崎城」、11月に松戸「小金城・根木内城」、12月に柏「松ケ崎城・増尾城・幸谷城」の各市 の御城印が次々と仲間入りをしています。







創刊 50号・「会報誌」物語

関宿城博物館友の会・会報誌は、2013年9月に創刊、7年の時を経て、次号で記念の50号を迎えます。 本号と次号では時勢と共に形を変えながら歴史を刻んできた会報誌の歩みを紹介します。

49号 物語① 「会報誌」の誕生

物 語② 「会報誌」の草創期

50号 物 語③ 「会報誌」の変革期

物 語④ これからの「会報誌」

物語①「会報誌」の誕生

「友の会」会報誌は平成23年8月21日開催の「関宿城博物館友の会(設立:平成23年7月3日)・臨時総会における事業計画承認に伴い刊行が開始されました。創刊号はモノクロで平成23年9月28日に刊行されました。84名を会員とする「友の会」の誕生を知らせると共に役員紹介が掲載されています。



物 語② 「会報誌」の草創期

「友の会」会報誌は第3号からオリジナル紙面をモノクロからカラー版へ変貌しましたが、配布誌をコピー印刷していたことにより予算上の事情でモノクロ印刷での発送となりました。3号以降令和元年度までは年間6回の刊行が行われました。同誌への掲載内容は友の会主催・共催のイベント開催案内や結果報告をメインとし、イベントへの参加者からの投稿や博物館界隈の話題も含めるよう努めたようですが、原稿収集が第一の苦労のようでした。第21号以降はバックナンバーを「関宿城博物館ホームページ・友の会」に掲載しています。カラー版で「友の会」会報誌をお楽しみください。

<当友の会は次の会員の方々から賛助をいただいております> 有限会社丸美葬祭様、遠藤産業 K K 様、 K K 関宿商事様、 大久保税理事務所様、関宿そば打ち愛好会様、森戸郵便局様、実相寺様

<おしらせ>12月19日予定の「ダイア凧作りと凧揚げ」はコロナ感染症予防で中止いたしました。

<編集後記>コロナで始まりコロナで終わった2020年。「使い捨てマスク」の多くは輸入品であることを知り、日本でのマスク姿の多さに驚いた外国からの観光客も今は自国でマスク姿。ブームの「鬼滅の刃」にあやかった市松模様のマスクまで登場。「新語・流行語大賞」年間大賞は「三密」、「今年の漢字』第一位は「密」に決定。因みに海外では「C」(Crowd群れる・Close閉める・Confine閉じ込める)のイメージで発信。新年・令和3年(2021)には「手つかず・やり残し・癒し」のあれやこれやがスムースに収まることを祈念するばかりです。 (広報・長岡)

連絡・問合せ先

千葉県立関宿城博物館友の会

〒270-0201 野田市関宿三軒家143-4 TEL 04-7196-1400 FAX 04-7196-3737